

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	本 荘 市 立 北 中 学 校					教員数
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	3 4
学級数	6	5	5	2	1 8	
生徒数	1 7 9	1 9 4	1 6 6	3	5 4 2	

研究の概要

1 研究主題

「魅力ある授業」と「確かな学力」の向上をめざして  
～完全学校週5日制の趣旨を生かすために、授業を通して学校を変える～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- |          |   |
|----------|---|
| 1年数学・英語～ | 生徒の理解の状況に差が出やすい教科のため，少人数学習やT Tにより個に応じた指導の充実を図るため    |
| 2年数学・英語～ | 生徒の理解の状況に差が出やすい教科のため，少人数学習や習熟度別学習により個に応じた指導の充実を図るため |
| 3年数学・英語～ | 生徒の理解の状況に差が出やすい教科のため，少人数学習や習熟度別学習により個に応じた指導の充実を図るため |

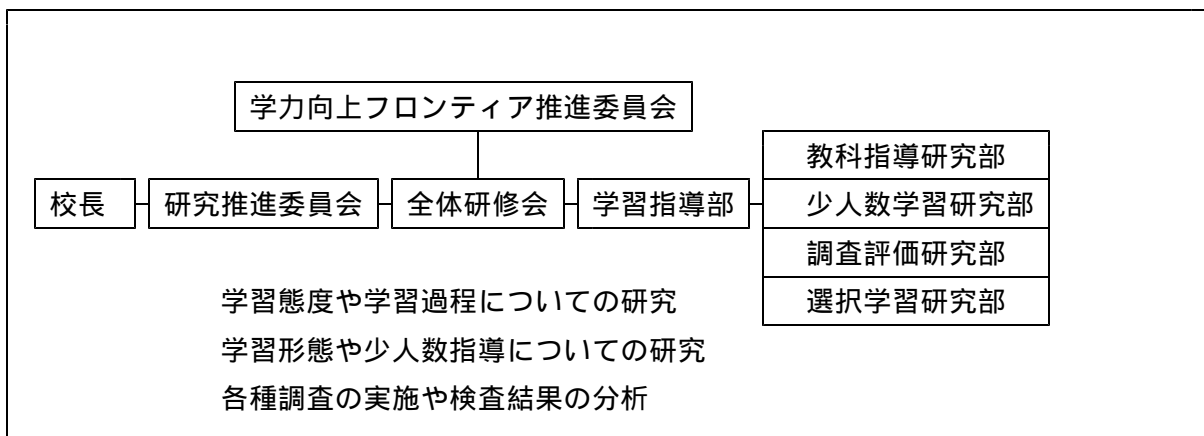
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">「魅力ある授業」と「確かな学力」の向上をめざして ～授業を通して，学校を変える～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>(1) 生徒・教材・指導者の三要素のかかわり方を追究し，基礎的・基本的な内容の定着を図りながら，魅力ある授業づくりを心がけるならば，確かな学力の向上を図ることができるであろう。</p> <p>(2) 生徒を引きつける課題提示の工夫を図り，認知と情意の両面から学びを振り返る自己評価活動を進めるならば，生徒の学びが継続していくであろう。</p>
	<p>研究の内容・方法</p> <p>重点1：魅力ある授業づくりのための授業力の育成</p> <p>（1）学びを成立させる課題づくりとその提示の工夫</p> <p>重点2：基礎・基本の定着を図るための指導の工夫</p> <p>（1）「学習課題」と「まとめ・振り返り」のつながりの重視</p> <p>（2）形成的・総括的評価，自己評価等が機能する学習過程の工夫</p> <p>重点3：少人数学習における指導方法の改善</p>

	<p>(1) 補充的な学習や発展的な学習と個に応じた効果的な指導の工夫</p> <p>(2) 習熟度別学習(数学・英語を中心とする)の推進</p> <p>(3) 余裕教室の効果的な活用</p> <p>重点4: 目標準拠評価に基づく評価活動の充実</p> <p>(1) 評価規準に基づく評価基準の作成とその活用</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「魅力ある授業」と「確かな学力」の向上をめざして</p> <p>～授業を通して、学校を変える～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>(1) 生徒・教材・指導者の三要素のかかわり方を追究し、基礎的・基本的な内容の定着を図りながら、魅力ある授業づくりを心がけるならば、確かな学力の向上を図ることができるであろう。</p> <p>(2) 個に応じた課題提示の工夫を図り、指導と評価の一体化をもとに個の実現状況に応じたきめ細かな支援をするならば、確かな学力の向上を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>重点1: 魅力ある授業づくりのための授業力の育成</p> <p>(1) 授業力 = (子ども理解 + 教材活用 + 指導技術) × 情熱</p> <p>重点2: 基礎・基本の定着を図るための指導の工夫</p> <p>(1) 「学習課題」と「まとめ・振り返り」のつながりの重視</p> <p>(2) 単なる知識から「解釈のある」知識への高まり</p> <p>重点3: 少人数学習における指導方法の改善</p> <p>(1) 補充的な学習や発展的な学習と個に応じた効果的な指導の工夫</p> <p>(2) 余裕教室の効果的な活用</p> <p>重点4: 目標準拠評価に基づく評価活動と支援の充実</p> <p>(1) 評価規準に基づく判断基準の設定とそれに対する支援</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1 研究成果

「魅力ある授業」と「確かな学力」の向上をめざして～授業を通して学校を変える～は、新学習指導要領の趣旨に沿って、方向性として確かなものである。

数学科、英語科の二教科を中心とする学力向上フロンティア事業の推進であるが、二教科の教員を核とした「授業改善」の追究で終わらずに、教科の枠を超えた「授業力の向上」に向けた授業研究会を通じて他教科の先生方とも互いに学ぶべきことが多く、有益であった。

発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の開発について

- ・習熟度別の少人数学習やTTで使用する学習プリントや学習シートについては、学習のねらいを明確にししながら、生徒の達成度に応じた問題の質や量を考慮し、自ら学習できるような工夫を図ることで、基礎・基本の定着が確かなものになってきた。

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について

- ・2, 3年生においてはTTの他に、学習相談室（余裕教室）や隣接する余裕教室（隣の学級）を活用して習熟度別学習を実施することで、個の達成度に応じた指導ができた。

子どもの学力の評価を生かした指導の改善について

- ・評価規準をもとに判断基準ABCを設定し、基準とそれぞれの実態に対する支援を指導計画に明記して、個に応じた指導の工夫を図ってきた。

- ・十分満足できる（A）をさらに伸ばしてやる手立て
- ・おおむね満足できる（B）をAまで伸ばしてやる手立て
- ・努力を要する（C）をBまで引き上げる手立て

一単位時間としての評価規準を明記してきたが、生徒の多様な実現状況に対応するための判断基準をさらに明らかにすることで、的確な評価とそれに対するきめ細かな支援が可能になった。自己の現在の学習状況よりもレベルの高い目標を設定することで、それに向かって学習しようとする生徒の姿勢が育っていきしており、生徒一人一人に対する教師の指導の方向性も見えてきている。

### 2 今後の課題

(1) 自校の主題に関する「魅力ある授業」や「目指す生徒像」、「つきたい力」の具体的な姿を明確にし、研究の方向性をしっかりとしたものにする。

- ・生徒の実態からテーマ「魅力ある授業と確かな学力」を考えたとき、確かな学力が身に付いた子どもの姿をどうイメージして、それに向けて各教科で魅力ある授業をどう構築するかを確認していきたい。

(2) 学習形態が先行して目的化している傾向にある。

- ・少人数指導（習熟度別学習）を実行する際には、確かな根拠に基づいて行われるようにする。生徒の実態や指導のねらいに即しながら「なぜ分けるのか」をはっきりすることによって、少人数指導の重要性が明らかにしたい。
- ・少人数にしても指導の工夫がなければ、人数が減っただけの一斉指導と何ら変わらない。「教師の手のかけすぎと話しすぎ」が多すぎることにより、自力解決の育成には課題が残る場合も出てくる。「うまい問いと声かけ」の工夫しだいで授業改善につなげていきたい。

(3) 個やコースに応じた教材の工夫とその開発をすすめる。

- ・少人数の学習形態を採用しても、その後の生徒個々の実態に応じた教材の開発や提示を工夫したい。より個に応じた指導の充実させるために、例えば、習熟度別に分けた場合、下位の生徒に対してはより具体的な教材を使って操作を伴った学習活動を展開したり、上位の生徒には基礎・基本を押さえながらより思考力を高めるような課題設定を行ったりするなど、生徒の達成状況を考慮した教材の開発を進めていきたい。
- (4) 指導と評価と支援の一体化を充実させる。
- ・評価規準をもとに判断基準ABCを設定して、それに対する支援の在り方を追究してきたが、さらに、豊かな（幅広い）支援をめざし、量（一人でも多くの生徒に）と質（一人一人の生徒によりマッチする）の両立を図りたい。生徒の予想される反応を大切にし、きめ細かな支援計画でそれぞれの段階を引き上げていくようにしたい。
- (5) フレンドシップ方式による授業改善を推進する。
- ・近隣の学校において優れた実践をしている仲間の協力を仰いで各教科部の機能を充実させ、研究のレベルアップを図るようにしたい。他校からの知恵と創意を参考にすることで、「確かな学力の向上」の追究に深みが増していく。また、この交流を通して近隣へのフロンティア事業の成果の普及につなげていきたい。

#### 学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査の実施（全校）と結果分析～4月実施，夏季休業以降分析・指導  
 国及び県の学習状況調査の継続実施と結果分析～7月実施，11月以降分析・指導  
 単元テスト（5教科）と定期テストの実施～各単元及び各学期ごとに実施  
 学習アンケートの実施と追跡調査～5月，9月，12月実施  
 学習記録カード及び自己評価カードの累積（各教科部）～随時  
 郡市一斉数学（計算）テストの実施（2，3年）～10月実施

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 学校だより等により，保護者へ「学力向上フロンティア事業」の趣旨説明
- 2 地区内における実践研究の成果の普及
  - ・フロンティア事業授業研究会（9月） 中間公開研究会（2月）
  - ・全教科授業研究会（11月）
- 3 他校訪問及び研究協議会への参加
  - ・六郷中，羽後中，五城目第一中，矢島中への訪問と，協議会での情報交換
  - ・市立子吉小学校との情報交換，及び市学力向上対策委員会等での普及
- 4 中間報告及び年次経過報告を作成し，その後の研究の在り方を再認
- 5 平成16年10月に公開研究会を予定

